

【寄稿】「SDGsの実現に向けて」

神田外語大学 石井雅章

「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で提示されている2030年に向けた国際目標です。持続可能な世界を実現するために17のゴールと169のターゲットが設定されています。カラフルで理解しやすい17のアイコンをご覧になったことがある方も多いかと思います。

SDGsのキーワードは、「持続可能性(Sustainability)」と「誰一人取り残さない(No One Left Behind)」です。すべての人々が人間らしく幸せに生き続ける世界を実現するために、達成しなければならない目標が具体的に示されています。

普段から環境活動に取り組まれている皆さんにとっては、エネルギーや水などの理解しやすい目標が含まれている一方で、貧困や公正などのようにこれまであまり意識してこなかったかもしれない目標も含まれています。

このように統合的かつ包括的な目標であるSDGsに対して、どのように取り組んでいけばよいのでしょうか。

私もメンバーの一員である「未来の学びと持続可能な開発・発展研究会(みがくSD研)」では、SDGsに関連した2つの実践的な研究に取り組んでいます。

ひとつは、SDGsと地方自治体の総合計画の接合を目指す研究活動です。総合計画とは、地方自治体が策定するすべての計画の基本となる総合的な計画のことで、5年くらいを一区切りとして自治体の目指すべきビジョンと実現に向けた計画を示したものです。

SDGsが世界全体の持続可能性を実現するための目標であるのに対し、総合計画は自分たちが暮らす地域における目標と言えます。地方自治体の総合計画をSDGsの観点から見直し、それらを接合することは、地域に関わるすべての人々が幸せに暮らし続けるために必要な施策を見える化し、実現するための助けになると考えています。

もうひとつの取り組みは、SDGsを自分ごと化するための講演やワークショップの内容づくりと実践です。SDGsは世界中の誰もが人間としての尊厳を持って生き続けることができるために実現すべき目標群ではありますが、個々の人々や組織、企業にとってどのように関係しているのか、理解しづらい面もあります。

また、17の目標がカラフルなアイコンで示されていることによって、自分に直接関係のありそうな項目だけ着目してしまい、目標間の相互作用やSDGsが目指す世界の全体像を見失ってしまう可能性もあります。

そこで、市民・自治体・企業などの対象別に、SDGsに対する関心レベルに応じた講演プログラムやワークショップをつくり、自らとSDGsが目指す世界とのつながりを実感できる機会を提供しています。

SDGsを自分ごと化するには、自分や自社の関心領域に加えて、自分とつながりのあるステイクホルダーとの関わり方や、既存のしくみ(システム)のあり方をSDGsの視点から見直してみることが重要です。

2030アジェンダの原題は、「我々の世界を変革する: Transforming our world」です。私たちと自然、社会、人間同士の関わり方をどのように変容させていくのが、SDGsでは問われているといえます。

(環パだより第123号(2018年9月発行)に掲載したものです)

